

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	御代田フットパス事業
事業主体 (連絡先)	(一社)長野県建築士会佐久支部 佐久市跡部65-1 長野県佐久建設事務所内 電話 0267-63-8080 (事務局)
事業区分	5 環境保全、景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,035,078 円 (うち支援金: 720,000 円)

事業内容

「フットパス」とは、「foot (歩く) path (小道) =人が歩くための小道」であり、「イギリスを発祥とする『森林や田園地帯、古い街並みなど地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くことができる小径 (こみち)』のこと(日本フットパス協会HPより引用)」である。

1: ルート作成

近隣住民によって使われている既存の通り道と景観や趣などの魅力ある地点を再評価し、そのなかでコースを設定して他地域の人が通行することへの理解を得つつ、マップ化

- ①対象エリア選びと地元自治会や団体等に協働依頼。
- ②コース仮設定ワークショップ[平成30年5月19日]
- ③仮コース歩きワークショップ[平成30年6月30日]



【建築士会による試し歩き】

2: ルート整備

フットパスの周知準備、通り道の手入れ作業や周知作業

- ① マップの作成・印刷、ウェブサイト作成[7月~11月]
- ② ルートや各地点の草刈り作業[6月~11月]
- ③ 道標および通行票づくり木工ワークショップ[平成30年10月21日]
- ④ 周知イベント[平成30年11月18日]



【仮コース歩きワークショップ】

- ・会場: エコールみよたおよびフットパスコース
- ・参加者: 一般参加者約130名 (現地合流含む)
建築士会メンバー 18名
計 約148名
- ・参加費: 500円
- ・内容: あつもりホールにてフットパスについて、また各地の事例について学び、御代田フットパスのコース開きとマップを紹介。地元名物の新そば、おにかけうどんの昼食後、各コースに分かれて移動し、地元住民のガイドを受けながらコース歩き。



【山道の草刈り】

○モデル的で発展性のある事業である理由

フットパスのルート作成・整備という具体的かつ誰もが利用できる成果に向けて講師による事例紹介も交えつつ地域協働を行うことで、地域のまちづくりや景観への関心、事業への親しみ、自分の住む地域の魅力や歴史的価値の再認識のきっかけとなったと期待される。今後の協働過程で継続的なフットパスの運用へ向け、維持管理を担う地域グループの形成を試み、さらに新たな事業展開へ繋がるよう建築士がサポートしたい。

事業に参加する建築士側も御代田町外からの参加もあり、当該地域への理解や関心を深めることができ、ここで得た地域協働の経験を佐久支部エリア全体に持ち帰って生かすことができる。



【木工ワークショップ】



【イベントでのコース歩き】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

①コース開きイベントに対し、問い合わせ多数。

イベント参加者で、後日ほかのルートも自主的に歩く様子がSNS上で確認された。こういう場所がほしかったという声も聞かれた。

②地区内の移住者やラインガルテン利用者の地元イベント参加が見られた。

③御代田町民でも、このエリアの景観や歴史の魅力を初めて知ったという声があり、地区住民の若年層には歩いたことのなかった地元の道や魅力への関心、熟年層には昔歩いた道や記憶、歴史の再認識とともに、地区外からの来訪者を迎え、紹介することで、自らの地域について考える契機となったと思われる。

⑤ 講師の方々からは、今回設定したエリアやコースの魅力とポテンシャルが大きい旨を指摘していただき、これを生かした活動や他地域との交流、展開の可能性が示された。

【目標、ねらい】

- ① 地域の中を歩ける場所を提供
- ② 新旧住民のコミュニティを醸成
- ③ 見慣れた地域の魅力や資源の再発見の契機
- ④ 移住者セミナーや訪問者を呼ぶコンテンツ化

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

・設定したコースの維持管理の計画、魅力ある季節を見極めた持続可能なイベント計画、およびサポートチームの緩やかな形成。

・フットパスマップの途切れないかつ効果的な供給の計画。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

※自己評価 【A】

【理由】

周知のためのイベントには予定を超える申し込みがあり、継続して訪れたい、イベントも開催してほしいという反響があった。迎える地域住民からも地域の紹介など積極的な参加を得られた。